

株主メモ

- 決算期 3月31日
定時株主総会 6月
基準日 3月31日(そのほか必要があるときは、あらかじめ公告いたします。)
利益配当金支払
株主確定日 3月31日
中間配当金支払
株主確定日 9月30日
上場証券取引所 東京・大阪・名古屋・福岡・札幌
公告掲載新聞 日本経済新聞
名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号
みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目5番1号
みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
〔郵便物送付先〕 〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号
電話お問合せ先 〔電話お問合せ先〕 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
☎ 0570 - 000324 (専用ダイヤル)
☎ (03) 3642 - 4004 (代表)
同取次所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
安田信託銀行株式会社 本店および全国各支店
みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店

株式事務取次所として「みずほインベスターズ証券株式会社の本店および全国各支店」を追加いたしております。

単元株制度採用のお知らせ

「商法等の一部を改正する等の法律」(平成13年法律第79号)が、平成13年10月1日に施行されたことにより、商法附則で定められていた単位株制度が廃止され、新たに単元株制度が創設されました。

これに伴い、当社は平成13年10月1日をもって“単位株制度採用会社”から、“単元株制度採用会社”となりましたのでご案内申し上げます。

なお、本件に関しまして、株主さまにおかれましては一切のお手続きが不要であり、また単元未満株式の買取は従来同様にご利用いただけます。



Vol.7

第84期 中間事業報告書
平成13年4月1日～平成13年9月30日



©Painting by Bob Pettes/
NOSTALGIC IMPRESSIONS / Orion Press



代表取締役社長 浦野光人
代表取締役会長 大戸武元

株主の皆さまへ

株主の皆さまには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
ここに第84期中間事業報告書をお届けするにあたり、日頃のご支援に心から厚く御礼申し上げます。

当中間期は、「グループミッション・ビジョン」のもとにグループ中期経営計画をスタートさせましたが、長引く消費低迷のなかであって、円安によるコストアップや競争激化に伴う販売価格の低下などが影響し、中間連結業績は厳しいものになりました。

あらためてグループ中期経営計画を強力に推し進めていくとともに、ニチレイグループの企業価値の向上に努めてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成13年12月

CONTENTS

株主の皆さまへ	1
会長・社長Interview	2
中間連結決算ハイライト	7
中間単独決算ハイライト	8
中間連結決算概要	9
中間単独決算概要	13
KEY WORD	15
INTRODUCTION	16
株式の状況	17
会社概要	18

表紙絵の画家プロフィール

表紙絵は、民話に心惹かれた米国人画家 Bob Pettes (ボブ・ペテス) 氏の作品です。ミネアポリス美術学校に学んだのち、民話にふさわしいタッチで描いた“アメリカーナ”シリーズが評判となり、人気を集めています。



会長・社長 Interview

～チームCEOの新マネジメント体制がスタート～

タッグを組んで計画を実行し、
新たな成果の芽を
確実に育ててまいります。

グループミッション・ビジョン

ミッション
(使命・存在意義)

くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する。

ビジョン
(めざす姿)

ニチレイ・グループは、卓越した食品と物流のネットワークを備える「食のフロンティアカンパニー」として、お客さまにご満足いただける優れた品質と価値ある商品・サービスを創造・提供し、広く好感と信頼を寄せられる企業として、社会とともに成長します。

当中間期におけるビジネス環境と業績について

大戸 上半期の連結業績につきましては、前年同期比で売上が減収、最終利益は増益となりましたが、中期経営計画のテーマを「構造改革から成長戦略のステージへ」と定めたように、明日の利益を生み出すための骨格は、着実にできてきているというのが私の印象です。「グループミッション・ビジョン」を策定し、3カ年経営計画を明確に設定しましたが、現状を把握して、きちんと戦略を立てていくうえで良い仕組みとなっています。

浦野 確かにそうですね。業績に関しては、戦略はできたものの、消費の落ち込みや円安による原材料輸入価格の上昇、競争の激化など、外部要因の変化にまだ身体がついていけなかった



からです。今後の努力の積み重ねが大切だと思います。

大戸 私どもがめざしている2003年の最終年度の目標値に向かって努力していくというのはとても大事なことです。例えば、情報システムですが、精度の高い販売戦略を立てるうえで、かなり有効なシステムができつつあります。しかし効果が現れてくるのには、もう少し時間がかかります。そういった意味で、私どもがめざす方向でやらなければならないことは、かなり進んでいると、株主の皆さまにはご理解を願いたいところです。

グループ中期経営計画

スリムで強靱な企業体質を活かしながら、卓越した食品と物流のネットワークを備える「食のフロンティアカンパニー」としてコーポレートブランドを高め、リーダーシップを発揮する食品上位企業としてのステータスを確立させる取組みを計画の基本としています。

2003年度グループ経営目標(連結)	
売上高	6,500億円
営業利益	230億円
経常利益	200億円
当期純利益	95億円
1株当たり純利益	30円56銭
有利子負債	1,450億円



中期経営計画達成に向けての施策は？

大戸 私どもは、成長分野に属する「低温物流事業」と「食品事業」をコア事業として位置付け、これを充実させることによって、2003年度最終目標を達成したいと思っております。

浦野 加えて、今後はグループ戦略を重視して各事業ユニットごとの資本効率の向上に努めてまいります。今まではグループというものが単体と離れているなかで、必ずしも資本効率を意識的に考えてきませんでした。そこをまず徹底的に正して、資本効率という一点に絞って事業ユニットを新しく組み上げていきたい。

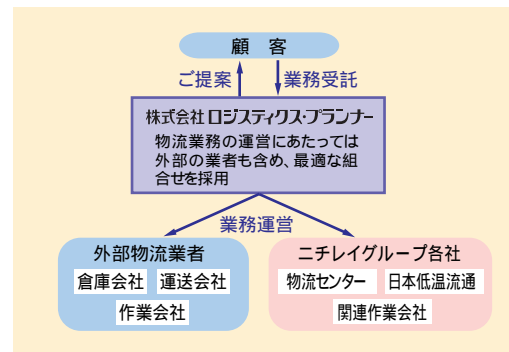
大戸 今年度は、まさに中期経営計画達成への第一歩、新たな成長に向けての基盤強化の年と位置付けられますからね。

低温物流事業における新たな戦略は？

大戸 低温物流事業については、今までは冷蔵倉庫という資産を持ち、保管にウェイトを置いた経営を行ってまいりました。これからはお客さまの物流をトータルにご提案していきたいと考えております。例えば、海外から果汁を運んで来る。そうすると、通関業務、荷揚げ業務、倉庫保管業務が伴います。また、その果汁をいろいろな味に調整することも必要です。果汁を運ぶ手配や消費地での冷蔵保管も不可欠です。こうしたすべての業務を私どもでお受けして効率化を図っていく。特に日本は食料品の輸入国です。それも冷凍という形で入ってきておりますので、国際的な物流という広い視野でユーザーにご提案していきたいですね。

浦野 低温物流事業の課題としては、総資産の回転率を高めるとい、この一点につきるのではないのでしょうか。従来の保管型事業だけでは成長余

ノンアセット型3PL事業



力がありません。今回の戦略は、なんといたてもノンアセット型のサードパーティロジスティクス(3PL)を主体に考えて、全体の資産効率を高めていこうというのが狙いからです。そのため昨年、ノンアセット型3PL事業運営会社(株式会社ロジスティクス・プランナー)を設立いたしました。まだビジネスモデル自体が完成したとは言えませんが、現在、ターゲットをメーカー、外食産業、流通・卸、海外の4つに絞り込み営業的に攻めているところです。次年度は、具体的な数字となって現れてくるのではないのでしょうか。

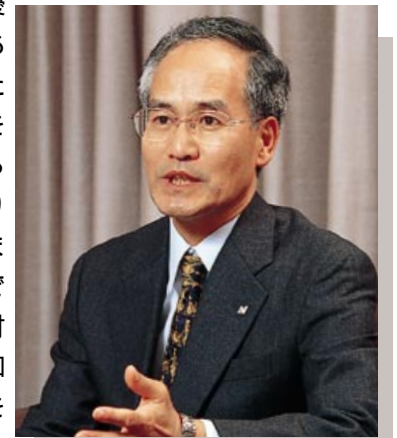
食品事業における新たな戦略については？

浦野 食品事業につきましては、二大戦略ですね。第一の戦略は、重点カテゴリへの集中です。商品のなかで付加価値の高いもの、要するにリーディングポジションを確保できるアイテムに絞って商品開発を進めていきます。今まではフルラインメーカーとして、トータル・シェアに非常に重きを置いてきましたが、中期経営計画では利益重視の戦略に転換しているところです。マーケットからの分析、当社の持つ加工技術からの分析、そして当社の持つ安心・安全の素材、この3つの掛け合わせのなかで、私どもが収益が上がると判断したものが、重点カテゴリになります。その重点カテゴリが成長していくからグループ全体も成長するという考えです。第二の戦略は生

産体制の再編による効率の向上です。重点カテゴリに集中・特化することによって、生産効率が上がります。その過程で当然、生産工場の再編成も可能になります。全国各地の小さな工場や海外生産拠点も含めて生産の再編成を進めています。

大戸 昨年は「甘えびシューマイ」、今年は「本格炒め炒飯」が非常に売上げを伸ばしています。私どもが重点カテゴリとしているのは「チキン加工品」「米飯類」「中華総菜類」です。「チキン加工品」「米飯類」は、シェアNo.1になっていますが、このような重点的なカテゴリをもっと増やしていこうというのが戦略です。原材料コストでも優位性が生まれますからね。

浦野 具体的には、「チキン加工品」を例に出せばわかりいただけるかと思います。私どもは、チキンの流通という面でかなりのシェアを持っています。加工においても先行した技術的な蓄積があります。それだけのベースがありますから、競争優位の立場にあります。したがってこれをもっと深めることで、より収益力が高まるとの判断です。また素材の新鮮さに加え、保存料を





ホクレンと共同開発した
「本格炒め炒飯」



日経流通新聞の新製品
売れ行き週間ランキングで1位
「甘えびシューマイ」

使わないという安心、安全さがある冷凍食品が今あらためて見直され始めています。このようなことから冷凍食品の成長率はますます高まってくるでしょう。

大戸 ええ、「安心・安全・健康・おいしさ」という私どもの食品事業のコンセプトから考えますと、まだまだ先行き伸びが見込まれる分野がたくさんありますから。これから高齢化社会を対象にした、医療食などのウェルネス食品もその一分野です。

浦野 そうですね。マーケットセグメントを、例えばニュー・フィフティーズ (New 50's) 向けとか、若い女性向けや子ども向けというように、もう少し細かくして明快な主張を持った食品を出しながら、そのなかで付加価値を生みだしていくことが重要だと思います。

チームCEOのコーポレートガバナンス体制とは？

大戸 現在は、連結経営への転換が大きな課題ですので、私がグループ全体の統治を担って、事業経営を浦野さんが中心になって推進しま



す。環境変化に対応してスピーディに体制や仕組みを変えていくには、かなりのエネルギーが必要です。そのような意味では二人体制 (チームCEO体制) というのは時代に合っていると思いますね。やはり私どもガバナンスとして株主の皆さまからの付託にお応えするためには、お預かりした資本を効率的に活用していくことが求められると思います。そういった視点で経営にあたりたいと思いますし、コンプライアンス (法令遵守)・企業倫理などもきちんとしていかなければなりません。ビジョンに向かって、その舵取りをきちんと行ってまいります。

浦野 私は、ビジネスというのは様々なステークホルダーの方々ときちんと価値を交換していくことが一番大切だと思っています。交換するからには、双方に相応の価値がなければなりません。そう考えたときに、企業の一番の根幹というのは、その環境に合わせた変化対応が的確にできるかどうかです。環境変化によって、「変えてはいけないもの」と「変えなければならないもの」、その見極めを誤らないためには、日々、自己変革ができる集団でないとい

いけない。私はそういうモチベーションを持つ集団を作りたいですね。

下半期に向けての抱負は？

大戸 下半期につきましては、残念ながらまだまだ厳しい状況は続くことが予想されます。ただ私どもが本当に実行しなければならないことは着実に実行していきたい。競争に勝つにはコストダウンを図って価格優位性を持つか、品質で差別化を図っていくか、の二つです。コストダウンを図るといっても、部分的では意味がありません。原材料調達、物流、製造、販売すべての分野でトータルに実行していかなければなりません。そのための新しい仕組み作りを着実にやってまいります。それが私の決意です。

浦野 中期経営計画のスタートとして1年目に設定された課題、カテゴリーへの集中特化や生産再編成の第一歩を踏み出しました。下半期も二人で力を合わせて、その歩みを進めてまいります。今年は2003年度までに達成すべき具体的な中期目標を施策に落とし込み、それを実行に移しています。グループとしての中期経営計画をはっきりと皆さまにお示しできるようになったことが前進の表れといえるのではないのでしょうか。新たな成長に向けた基盤強化を着実に進めてまいりますので、株主の皆さまにもご理解をいただければと存じます。

グループ中期経営計画

課題1

低温物流事業・食品事業をコア事業と位置付けた成長戦略
食品の成長分野で事業を展開している「低温物流事業」と「食品事業」をコア事業と位置付けます。低温物流事業では、冷蔵倉庫の機能を強化するとともに、旺盛な物流改革ニーズへの対応として3PL事業の展開や小売業物流センターの受託拠点数の拡大を図ります。食品事業の中軸となる加工食品では、「チキン」「米飯」「中華」の3つの成長カテゴリーに経営資源を集中させます。

課題2

資本効率の追求と資本構成の適正化
既存の事業基盤による機能追求と収益機会の拡大、大型の資本投下を必要としない事業への取組みにより、資本回転率を改善させます。設備投資は減価償却費の範囲内に収め、純現金収支を活用して有利子負債を削減します。

課題3

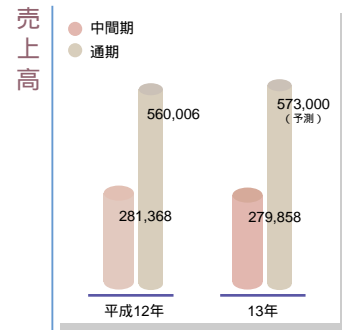
お客さま起点の経営による競争優位の達成
「お客さまの価値判断で企業価値は決定する」という考え方を経営の出発点とし、お客さまの視点を活かした経営の実践によって各事業での競争優位を達成します。

課題4

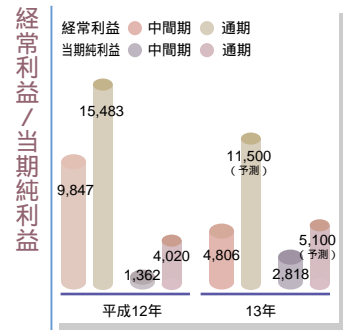
事業ドメインの再編と事業ユニット制の導入
お客さまの視点に立った市場分析に基づきグループ企業を事業ドメイン別に再編し、事業運営力の強化を図ります。特にコア事業の低温物流事業および食品事業につきましては、ミッション・成果目標と事業責任を明確にするため、事業ユニット (グループ内カンパニー) 制を導入します。



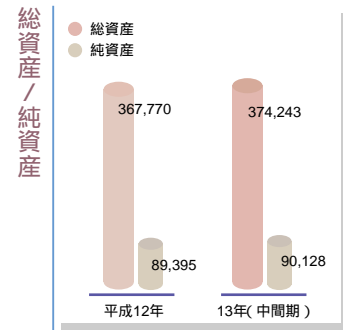
中間連結決算ハイライト



(年度/単位: 百万円)



(年度/単位: 百万円)



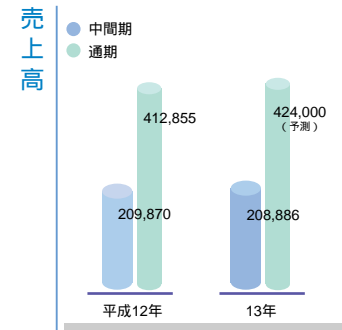
(年度/単位: 百万円)

区分	単位	第83期中間期(平成12年度)	第84期中間期(平成13年度)
売上高	百万円	281,368	279,858
営業利益	百万円	11,343	6,090
経常利益	百万円	9,847	4,806
中間純利益	百万円	1,362	2,818
区分	単位	第83期(平成12年度)	第84期中間期(平成13年度)
総資産	百万円	367,770	374,243
純資産	百万円	89,395	90,128
設備投資額	百万円	9,703	4,792
有利子負債	百万円	172,704	177,821

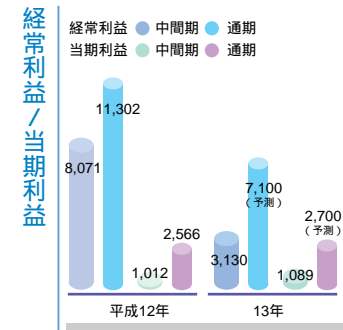
(注) 連結ならびに単独の売上高、経常利益および当期(純)利益の通期予想は、平成13年11月13日公表値を記載しています。なお、この業績予想には、リスクや不確定な要素などの要因が含まれており、実際の業績は記載の予想とは異なる可能性があります。

中間単独決算ハイライト

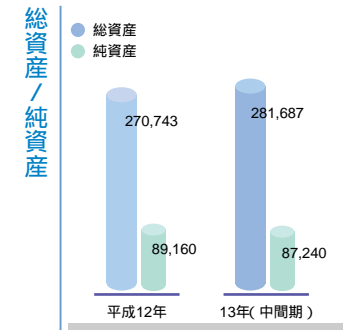
中間配当金は1株につき3円とし、平成13年12月4日を支払開始日とさせていただきます。



(年度/単位: 百万円)



(年度/単位: 百万円)



(年度/単位: 百万円)

区分	単位	第80期中間期(平成9年度)	第81期中間期(平成10年度)	第82期中間期(平成11年度)	第83期中間期(平成12年度)	第84期中間期(平成13年度)
売上高	百万円	219,271	209,360	209,178	209,870	208,886
営業利益	百万円	3,618	2,757	6,076	8,396	3,097
経常利益	百万円	2,893	2,115	5,215	8,071	3,130
中間純利益	百万円	872	4,104	3,144	1,012	1,089
区分	単位	第80期(平成9年度)	第81期(平成10年度)	第82期(平成11年度)	第83期(平成12年度)	第84期中間期(平成13年度)
総資産	百万円	288,643	277,498	264,619	270,743	281,687
純資産	百万円	88,696	82,202	83,306	89,160	87,240
設備投資額	百万円	7,688	5,301	3,482	5,020	3,312
有利子負債	百万円	134,798	126,877	107,712	104,953	116,810

(注) 事業税の表示変更に伴い、第80期中間期、第81期中間期の営業利益および経常利益は事業税額を加算して記載しています。

くらしの笑顔を増やし隊



ニチレイグループ当社および103社 (平成13年9月30日現在)

ニチレイグループは、当社、子会社90社および関連会社13社で構成され、低温物流、食品、食品卸売、不動産、その他の5事業ならびにこれらに付帯する業務を展開しています。各事業に属している子会社・関連会社数とニチレイグループの事業概要をご紹介します。

低温物流事業

国内39社

- 低温保管
- サードパーティロジスティクス(3PL)
- 物流コンサルティング、物流業務受託運営などを行っています。
- 低温輸配送
- 流通加工(凍結・解凍・加工など)
- 配送センター(TC)
- 角氷、包装氷の製造・販売

海外9社

- 低温保管
- 低温輸配送
- 流通加工(凍結・解凍・加工など)
- 配送センター(TC)
- 統括管理(欧州)
- 資金調達(欧州)



食品事業

国内29社

- 加工食品の製造・加工・販売
- 製造作業代行
- 水産品の加工・販売
- 加工作業代行
- 畜産品の加工・販売
- 加工作業代行

海外11社

- 加工食品の製造・加工・販売
- アセロラの研究開発
- 水産品の加工・販売
- 農・水・畜産物の買付け代行
- 畜産物の加工・販売



食品卸売事業

国内4社

- 飲料品の販売・物流業務受託運営など
- 野菜、果実などの受託販売・購入販売

不動産事業

国内2社

- オフィスビル等の賃貸
- 宅地の分譲
- 不動産の賃貸・管理など

その他の事業

国内7社

- 診断薬・化粧品原料の製造・販売
- 蘭等の生産・販売
- 保険代理店
- 建築工事・設計
- その他

全社共通 国内2社

- 人事・総務業務代行
- 財務・経理業務代行



事業別概況

当中間期の売上高は2,798億58百万円（前年同期比0.5%の減収）で、販売用不動産の売却益の減少や原材料買付価格の上昇などにより、営業利益が60億90百万円（前年同期比46.3%の減益）となりました。経常利益48億6百万円（前年同期比51.2%の減益）から特別損益および税金費用を差し引いた中間純利益は28億18百万円（前年同期比106.9%の増益）となりました。

事業別の売上高・営業利益

当中間期から、「事業ユニット（グループ内カンパニー制）」へ移行したことに伴い、従来「食品事業」に含めていました株式会社キキワおよび同社の子会社の事業を「食品卸売事業」として独立させました。なお、ご参考のために前中間期事業別売上高も変更後の事業区分で表示しています。

（単位：百万円）

	当中間期		前中間期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
低温物流事業	56,836	4,103	54,163	4,526
食品事業	176,079	3,857	180,360	6,686
食品卸売事業	69,171	139	66,224	267
不動産事業	3,387	2,041	5,633	3,950
その他の事業	3,967	176	3,234	181
消去または全社	(29,583)	(3,948)	(28,248)	(3,734)
合計	279,858	6,090	281,368	11,343

低温物流事業

売上高 568億36百万円（前中間期比4.9%増収）
営業利益 41億3百万円（前中間期比9.4%減益）

国内

当社グループの保管型物流事業では、地域におけるグループ営業力の強化を図り、お客さまに密着した営業活動を展開しましたが、水・畜産物の輸入量の減少などにより稼働率は前年同期を下回りました。一方、原価面では、引き続き荷役作業コストの低減と事務の効率化に取り組み、成果をあげることができました。また、物流サービス品質の向上をめざして、品質管理体制や環境マネジメントシステムの構築に取り組むとともに、資本効率の観点から、仙台物流サービスセンター、沼津物流サービスセンターなど低生産性の4事業所を閉鎖し、一部を売却する一方、新たに仙台南物流サービスセンターを稼働させました。



低温輸配送事業は、運送単価が下落するなか、当社と株式会社ロジスティクス・プランナー、株式会社日本低温流通の連携による営業活動を積極的に展開し、幹線（拠点間）輸送の強化と共同配送体制による域内配送の拡充を図りました。また、価格競争力を向上させるためのローコスト体制の構築や、高品質な輸配送の仕組み作りに取り組みました。この結果、輸配送と保管を組み合わせた一体型事業は順調に拡大しています。

流通型物流事業につきましては、量販店・食品卸を中心に物流業務の外注化が進展するなか、量販店の物流を担う川越北物流サービスセンターを新設稼働させるとともに、事業の拡大に伴い船橋日の出物流サービスセンターを閉鎖し、新たに習志野物流サービスセンターを稼働させました。また、イオングループから受託した物流・生鮮加工業務を効率的に運営するため設立した株式会社ロジスティクス・オペレーションが、トランスファー（配送）機能とプロセス（加工）機能を併設した仙台センターを稼働させました。しかしながら、新規稼働に伴う初期費用の増加などにより、流通型物流事業の営業利益は前年同期を下回りました。

「3PL（サードパーティ ロジスティクス）事業」につきましては、i-modeを利用した配送管理システムの開発・導入など事業基盤の確立に取り組み、新規顧客の開拓にも努めましたが、当初計画の売上高を達成することはできませんでした。

欧州（オランダ・ドイツ）

欧州グループ各社は、水産物や果汁・果実の輸入量の増加から、在庫量・在庫量ともに前年同期を上回り、輸送・通関事業も好調に推移したことなどから、増収・増益となりました。

食品事業

売上高 1,760億79百万円（前中間期比2.4%減収）
営業利益 38億57百万円（前中間期比42.3%減益）

加工食品事業

当社グループは、チキン加工品、米飯類、中華総菜類を戦略カテゴリーとして位置付け、No.1のポジションの確立・獲得と収益の向上をめざして、マーケティング機能の強化と顧客満足度の向上に努めました。また、生産体制の最適化による生産効率の向上と生産原価の削減などに取り組みました。



家庭用は、新商品の「本格炒め炒飯」が電子レンジでも香ばしくバラツキと仕上がる炒め技術により生活者の高い支持を受け、ピラフ市場を拡大する原動力となりました。お弁当向けに商品化した「やわらかイカの磯辺揚げ」も生活者のバラエティーニーズに応え、売上げ・収益に貢献しました。「えびとチーズのクリーミーグラタン」、「パリパリの春巻」、「焼おにぎり」などの既存商品も順調に売上げを拡大し、チキン加工品や食肉加工品の売上げの減少をカバーしました。

業務用の新商品では、総菜ルート向けの素材にこだわりを持った「特撰Deliクリームコロッケ（甘えび）」や、外食向けの「特撰中華直火炒めチャーハン」などが業務用全体の売上高に貢献しました。

これらの結果、家庭用・業務用ともに売上高は前年同期を上回りましたが、低価格化の進行や積極的な販売活動の展開による販売促進費の増加などから減益となりました。

レトルト食品・缶詰につきましては、業務用の「カレー・ソース類」の売上げは好調でしたが、前年度に引き続き輸入素材缶詰の取扱いを絞り込んだことから、売上げ・収益はともに前年同期を下回りました。アセロラ飲料は、TVコマーシャルや雑誌媒体などにより健康習慣飲料「アセロラドリンク」の認知度がさらに高まり、売上げ・収益はともに前年同期を上回りました。

なお、生産面では操業率の向上や生産コストの削減などに取り組みましたが、円安や疫病の発生に伴う原材料買付価格の高騰などから、生産利益は前年同期を下回りました。

以上により、加工食品事業の売上高・営業利益はともに前年同期を下回りました。

水産品事業

水産業界は、国内沿岸魚の豊漁や円安による輸入価格の上昇などから、輸入冷凍魚の荷動きが鈍るとともに、低価格化の進行により市況も低迷する厳しい事業環境となりました。特に、えびは年初からの国内消費の減退により需給バランスが崩れ、市場価格は過去最安値まで下落しました。



当社グループ各社は、重点施策として、海外加工品の生産体制の最適化を図るとともに、こだわり商品と流通型加工品の開発・改良を進め、展示会などを通じた拡販や販売ルートの開拓・拡大に取り組みましたが、市況低迷などの影響を受け、売上高・営業利益はともに前年同期を下回りました。

畜産品事業

畜産業界は、欧州で発生した口蹄疫の影響により豚肉の輸入価格が上昇し、インフルエンザウィルスの検出に伴い中国産チキン等に一時的な輸入禁措置が講じられるなど、さらに厳しい事業環境で推移しました。



当社は、特長ある素材の調達ルートの拡大と顧客の安定化に努める一方、取扱商品の品質監査を実施するなど、品質保証体制の構築と品質管理水準の高度化に取り組みました。また、販売価格の改定や国産牛肉の取扱いの拡大にも努めました。この結果、売上高は増収となりましたが、営業利益は豚肉の買付価格の上昇などにより減益となりました。

食品卸売事業

売上高 691億71百万円（前中間期比4.4%増収）
営業利益 1億39百万円（—）

株式会社キキワは、全社横断的なプロジェクトのもと新サービス機能の構築・提供に取り組む一方、基幹情報システムの定着やEDI（電子取引）の推進に加え、業務改革運動の全国展開により、固定費の削減と生産性の向上を図った結果、売上高は増収となり、営業損失も縮小しました。

不動産事業

売上高 33億87百万円（前中間期比39.9%減収）
営業利益 20億41百万円（前中間期比48.3%減益）

賃貸事業として、大阪市北区においてオフィスビルの建設に着手するとともに、東京都中央区所在の土地について賃貸の準備を進めました。分譲事業につきましては、東京都江東区所在の土地ほか2区画の売上げを計上しました。しかしながら、当中間期は販売用不動産の販売を実施しなかったことから、前年同期比で減収・減益となりました。



その他の事業

売上高 39億67百万円（前中間期比22.6%増収）
営業利益 1億76百万円（前中間期比2.8%減益）

東洋工機株式会社において、配送センターの建設や食品冷凍設備工事などが引き続き増加しました。

中間連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当中間期	前 期	科 目	当中間期	前 期
	平成13年9月30日現在	平成13年9月30日現在		平成13年9月30日現在	平成13年9月30日現在
資 産 の 部			負 債 の 部		
流 動 資 産	141,770	130,983	流 動 負 債	173,770	157,186
現金及び預金	5,718	5,910	支払手形及び買掛金	53,591	50,026
受取手形及び売掛金	89,374	79,537	短期借入金	49,325	41,098
たな卸資産	38,445	37,088	コマーシャルペーパー	15,000	8,000
繰延税金資産	2,143	1,142	長期借入金(1年以内返済)	8,407	9,585
その他の流動資産	6,316	7,524	社債(1年以内償還)	20,000	20,000
貸倒引当金	228	219	未払法人税等	1,244	3,437
固 定 資 産	232,472	236,786	その他の流動負債	26,201	25,037
有形固定資産	170,869	172,943	固 定 負 債	109,251	120,043
建物及び構築物	98,410	99,253	社 債	30,000	35,000
機械装置及び運搬具	21,962	22,083	転換社債	6,307	6,307
土地	45,569	45,631	長期借入金	48,782	52,713
建設仮勘定	3,120	4,140	繰延税金負債	890	2,345
その他の有形固定資産	1,806	1,834	退職給付引当金	4,226	4,189
無形固定資産	6,682	6,312	役員退職慰労引当金	710	1,133
投 資 等	54,920	57,531	連結調整勘定	48	55
投資有価証券	41,284	44,006	その他の固定負債	18,286	18,299
繰延税金資産	1,935	1,861	負 債 合 計	283,021	277,229
その他の投資等	12,545	12,369	少数株主持分	1,092	1,145
貸倒引当金	844	706	資 本 の 部		
資 産 合 計	374,243	367,770	資 本 金	30,307	30,307
			資本準備金	23,704	23,704
			連結剰余金	32,384	30,701
			その他有価証券評価差額金	3,657	5,348
			為替換算調整勘定	75	665
			自 己 株 式	0	1
			資 本 合 計	90,128	89,395
			負債、少数株主持分及び資本合計	374,243	367,770

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 173,750百万円
2. 保証債務 6,712百万円

3. 1株当たり中間純利益 9円6銭(自己株式数控除後の期中平均株式数による)
4. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

中間連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当中間期	前中間期
	平成13年4月1日から平成13年9月30日まで	平成12年4月1日から平成12年9月30日まで
売 上 高	279,858	281,368
売 上 原 価	229,986	226,286
販売費及び一般管理費	43,781	43,738
営 業 利 益	6,090	11,343
営 業 外 収 益	1,191	1,530
営 業 外 費 用	2,474	3,025
経 常 利 益	4,806	9,847
特 別 利 益	107	9,176
特 別 損 失	1,907	16,843
税金等調整前中間純利益	3,007	2,180
法人税、住民税及び事業税	1,251	4,398
法人税等調整額	1,018	3,500
少数株主損失	43	79
中 間 純 利 益	2,818	1,362

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

中間連結剰余金計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当中間期
	平成13年4月1日から平成13年9月30日まで
連結剰余金期首残高	30,701
連結剰余金増加高	
連結剰余金減少高	1,135
配当金	932
取締役賞与金	203
中間純利益	2,818
連結剰余金中間期末残高	32,384

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当中間期
	平成13年4月1日から平成13年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	881
投資活動によるキャッシュ・フロー	5,286
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,861
現金及び現金同等物に係る換算差額	88
現金及び現金同等物の増減額	454
現金及び現金同等物の期首残高	5,823
現金及び現金同等物の中間期末残高	5,368

(注) 1. 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
現金及び預金 5,718百万円
預入期間3ヶ月超の定期預金 82百万円
短期借入金に含まれる当座借越額 268百万円
現金及び現金同等物の中間期末残高 5,368百万円
2. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

ポイント
連結貸借対照表

【売上債権・たな卸資産と仕入債務】

売上げが9月前後に増加するという季節要因により、前期末に比べ受取手形及び売掛金が98億36百万円、たな卸資産が13億57百万円増加する一方、支払手形及び買掛金も35億64百万円増加しました。

【設備投資】

当社社台南物流サービスセンターの新設などを含む設備投資の総額は47億92百万円で、引き続き減価償却費の範囲内に抑制しました。
また、資本効率の観点から、設備等の賃借方式により習志野物流サービスセンターを稼働させました。

【有利子負債】

季節要因に基づく一時的な売上債権の増加などにより運転資金が増えたことから、当中間期末の有利子負債残高は1,778億21百万円となり、前期末に比べ51億16百万円増加しました。

ポイント
連結損益計算書

【売上高】

低温物流事業や食品卸売事業が前年同期に比べ増収となりましたが、水産品の市況低迷による影響や販売用不動産の売上げ減少などから、前年同期に比べ0.5%の減収となりました。

【営業利益】

円安による原材料買付価格の上昇や水産品市況の低迷などにより食品事業の収益が一時的に低下し、また販売用不動産の売却益が減少したことなどから、前年同期に比べ46.3%の減益となりました。

【特別損失】

主な内訳は、資本効率の低下した物流サービスセンターの閉鎖に伴う損失9億13百万円や、保有株式の時価の下落などに伴う投資有価証券評価損4億43百万円です。

中間単独貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期 平成13年9月30日現在	前期 平成13年3月31日現在	科目	当中間期 平成13年9月30日現在	前期 平成13年3月31日現在
資産の部			負債の部		
流動資産	109,430	98,714	流動負債	131,426	112,317
現金・預金	2,516	2,079	支払手形・買掛金	32,614	28,755
受取手形・売掛金	68,805	59,298	短期借入金	34,246	25,344
棚卸資産	27,785	27,519	コマーシャルペーパー	15,000	8,000
繰延税金資産	1,293	2,130	社債(1年以内償還)	20,000	20,000
その他	9,343	8,029	長期借入金(1年以内返済)	3,875	3,605
貸倒引当金	313	343	その他	25,689	26,612
固定資産	172,256	172,029	固定負債	63,020	69,265
有形固定資産	106,091	102,806	社債	30,000	35,000
建物	57,359	54,484	転換社債	6,307	6,307
機械装置	13,568	13,328	長期借入金	7,380	6,696
土地	28,542	27,811	繰延税金負債	248	1,804
その他	6,620	7,181	引当金	752	1,065
無形固定資産	3,845	3,316	預り保証金	18,322	18,380
投資等	62,319	65,905	その他	9	11
投資その他	63,094	66,577	負債合計	194,446	181,583
貸倒引当金	774	671	資本の部		
資産合計	281,687	270,743	資本金	30,307	30,307
			法定準備金	29,416	29,315
			剰余金	24,310	24,324
			(うち中間当期利益)	(1,089)	(2,566)
			その他有価証券評価差額金	3,205	5,212
			自己株式	0	
			資本合計	87,240	89,160
			負債及び資本合計	281,687	270,743

(注) 1. 有形固定資産の減価償却累計額 128,536百万円
2. 保証債務 34,786百万円

3. 1株当たり中間利益 3円50銭(自己株式数控除後の期中平均株式数による)
4. 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

単独貸借対照表
ポイント

【流動負債:社債(1年以内償還)の増減】

第12回無担保社債200億円は、当中間期において償還期限が1年以内となりましたので、前期までの固定負債から流動負債に振り替えて表示しています。なお、前期末の第11回無担保社債200億円は、2001年7月に償還を行いました。

【固定負債:社債の発行】

次のとおり無担保社債150億円を発行しました。

	第15回無担保社債 (社債間限定同順位特約付)	第16回無担保社債 (社債間限定同順位特約付)
発行額	100億円	50億円
利率	年0.97%	年1.43%
発行日	平成13年5月2日	平成13年5月2日
償還期限	平成18年5月2日	平成20年5月2日

【資本:自己株式】

前事業年度まで流動資産の「その他」に含めて表示していた自己株式は、中間財務諸表等規則の改正に伴い、当中間期から資本の控除項目として資本の部の末尾に記載しています。

中間単独損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期 平成13年4月1日から 平成13年9月30日まで	前中間期 平成12年4月1日から 平成12年9月30日まで
売上高	208,886	209,870
売上原価	174,461	171,028
販売費及び一般管理費	31,327	30,446
営業利益	3,097	8,396
営業外収益	1,298	1,452
営業外費用	1,265	1,777
経常利益	3,130	8,071
特別利益	142	9,322
特別損失	1,419	15,661
税引前中間利益	1,853	1,731
法人税、住民税及び事業税	67	3,489
法人税等調整額	696	2,770
中間利益	1,089	1,012
前期繰越利益	2,031	2,050
中間未処分利益	3,121	3,063

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

単独損益計算書
ポイント

【売上高】

低温物流事業や加工食品事業が前年同期に比べ増収となりましたが、水産品事業における取扱いの絞込みや販売用不動産の売上げ減少などから、ほぼ前年同期並みとなりました。

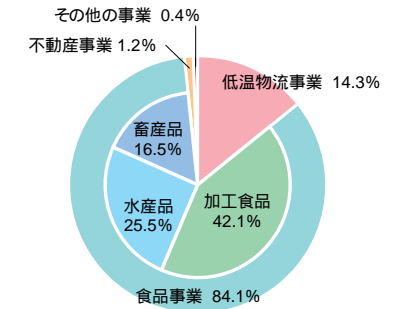
【営業利益】

円安による原材料買付価格の上昇や販売促進費の増加、水産品市況の低迷などにより食品事業の営業利益が低下し、また販売用不動産の売却益が減少したことなどから、前年同期に比べ63.1%の減益となりました。

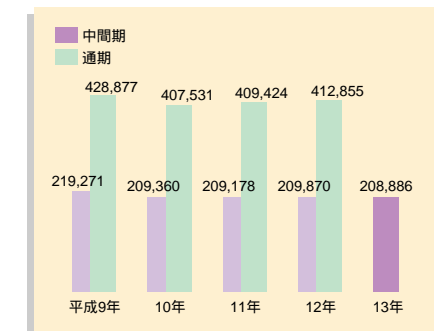
【営業外費用】

当中間期の有利子負債は1,168億100百万円で、前期末に比べて118億56百万円増加しましたが、資金調達コストの低減により支払利息は8億80百万円となり、前年同期に比べ4億16百万円減少しました。

当中間期の事業別売上高構成比



売上高の推移



(年度/単位:百万円)

KEY WORD

ニチレイならではの企業活動やトピックスなどをキーワードによりご紹介します。



新シリーズ「逸品和菜」

～お客さまのニーズにお応えし、
新シリーズが誕生しました～



冷凍食品の用途のなかで、現在一番利用されているのが「お弁当用」のメニューです。「朝の忙しい時間帯にフライはなかなか難しい、しかしお弁当には入れてあげたい」、そうしたニーズにお応えし、フライ類を中心にラインアップも充実させたことから、多くのお客さまに支持されてきました。

しかし実際にはフライ類だけではなく、様々なメニューをお求めになる声が多く、当社で実施したアンケート結果でも、実に8割を超えるお客さまが「魚」や「野菜」を使ったヘルシーなメニューの提案をお望みになっています。

昨春の発売時から大ヒットとした「天然ぶりの照り焼き」は、こうしたお客さまのニーズにお応

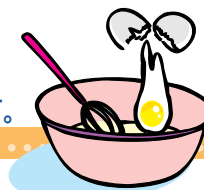
えするものとして、さらには魚のメニューをお弁当に入れたいが、「調理が面倒、生臭みや骨が残って子供が嫌がる、冷めるとパサついておいしくない」などのお客さまのご意見を参考に、それら一つひとつ解決して商品化しました。

今秋には、メニューも新たに切り揃え、「逸品和菜」が新シリーズとして誕生しました。この「逸品和菜」は缶詰ギフトとして長年にわたりご愛顧いただいているブランドの商品コンセプトを受け継ぎ、冷凍食品の商品開発に活かしたものです。

これからもお弁当はもちろんのこと、朝夕のお惣菜としても大人からお子さままで喜んでいただけるよう、さらにラインアップを充実してまいります。

INTRODUCTION

ご好評の商品をご紹介します。



甘えび蒸餃子



船上でボイルした甘えびをふんだんに使った、本格手作りの蒸餃子が電子レンジで簡単に出来上がります。薄い皮を使用して甘えびの鮮やかな色が透き通るように仕上げました。ジューシーな鶏肉、シャキシャキとしたタケノコを具に入れた、甘えびの香りたよう蒸餃子です。

赤魚の照り焼き



柔らかくて、くせのない赤魚を醤油ベースで照り焼きにしました。赤魚のおいしさを十分に引き出すために自家製のタレに漬け込み、ていねいに焼き上げてあります。お子さまでも食べやすいように小骨を取り除き、ほどよい大きさにカット。小分けトレー入りですので、お弁当にピッタリです。

クラムチャウダー



牛乳300mlを加えて温めるだけで本格的なクラムチャウダーが出来る、レトルト濃縮ベースのスープです。フランス料理で使われる魚からとっただし「フュメ・ド・ポワソン」を配合しました。プロの味が手軽にご家庭でお召し上がりいただけます。

甘えびシューマイ



甘えびを増量し、旨み、甘み、食感がさらに楽しめるシューマイになりました。甘えびの存在感がアップするとともに、ジューシーな白身魚のすり身の旨みも生きています。透明な薄皮にたっぷりに入った甘えびの華やかな色が一層映えるように仕上げました。

京風さわらのゆず風味焼き



食べやすい大きさにカットした、さわらの旨みを封じ込めるように、表面はしっかり、中はふっくらと、そして香り高く焼き上げました。ほんのりとしたゆずの香りが、さわらの風味を一段と引き立てます。お子さまでも食べやすいように小骨も取り除いてあります。

まるやかアセロラ



天然ビタミンCがレモンの約34倍も含まれているアセロラ。そのアセロラの果汁をピューレタイプにして使用し、果実感たっぷりなめらかな口当たりの飲料に仕上げました。天然ビタミンCが120mgも摂れ、女性やお子さまに好評なまるやかな味わいです。

株式の状況 (平成13年9月30日現在)

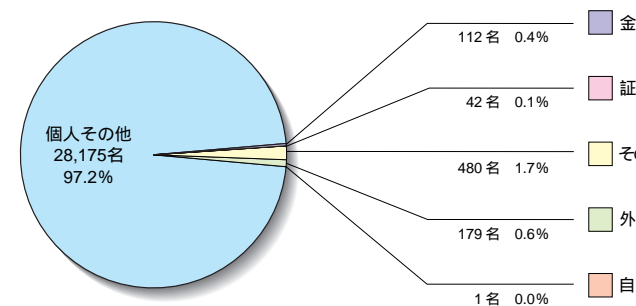
会社が発行する株式の総数…………… 720,000,000株
 発行済株式の総数…………… 310,851,065株
 1単位の株式数…………… 1,000株
 株主数…………… 28,989名

大株主

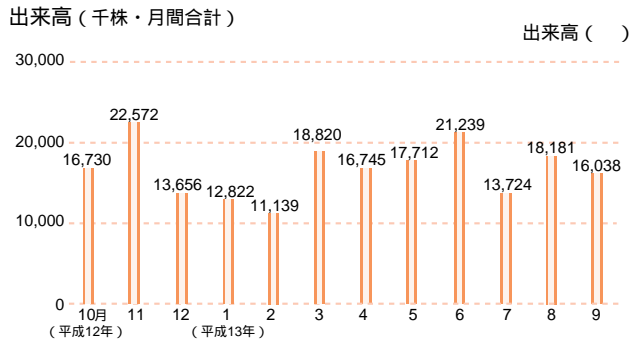
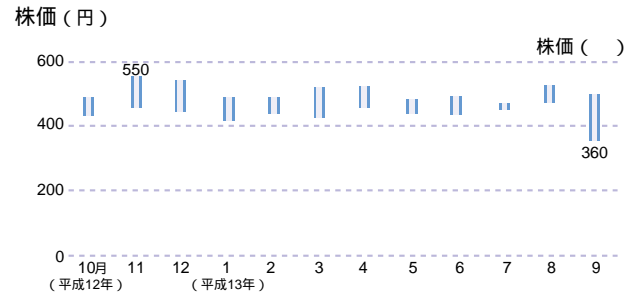
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トクワ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	20,475	6.6
日本生命保険相互会社	17,334	5.6
みずほ信託銀行株式会社退職給付信託(富士銀行口)	13,655	4.4
株式会社東海銀行	12,774	4.1
日産火災海上保険株式会社	9,968	3.2
スタート・ストリート・ソフィア・トラスト・カブ・ニー	8,115	2.6
東洋信託銀行株式会社(信託勘定A口)	7,556	2.4
三菱信託銀行株式会社(信託口)	6,710	2.2
株式会社日本興業銀行	5,514	1.8
第一生命保険相互会社	5,351	1.7

(注) 1. みずほ信託銀行株式会社退職給付信託(富士銀行口)の持株数13,655千株は、株式会社富士銀行が同行に委託した退職給付信託の信託財産であり、その議決権行使の指図権は株式会社富士銀行が留保しています。
 2. 持株数は千株未満を切り捨てて表示しています。

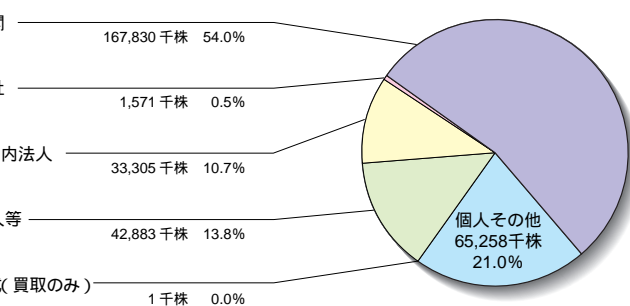
所有者別株主数分布状況



株価チャート



所有者別株式数分布状況



会社概要 (平成13年9月30日現在)

社名 株式会社ニチレイ
 所在地 東京都中央区築地六丁目19番20号
 ニチレイ東銀座ビル

設立 昭和17年12月

支社

北海道支社 〒060-0807 札幌市北区北7条西1-2-6
 ☎(011)708-0791
東北低温物流支社 〒980-8486 仙台市青葉区中央3-2-1
 ☎(022)711-2101
東北営業支社 〒980-8486 仙台市青葉区中央3-2-1
 ☎(022)711-2101
関東低温物流支社 〒104-0043 東京都中央区湊3-5-7
 ☎(03)3297-4501
関東営業支社 〒104-0043 東京都中央区湊3-5-7
 ☎(03)3297-4501
中部低温物流支社 〒456-0072 名古屋市熱田区川並町2-16
 ☎(052)683-2551
中部営業支社 〒456-0072 名古屋市熱田区川並町2-16
 ☎(052)683-2551
関西低温物流支社 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-4-8
 ☎(06)6263-2555
関西営業支社 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-4-8
 ☎(06)6263-2555
九州低温物流支社 〒814-0001 福岡市早良区百道浜1-7-5
 ☎(092)841-6700
九州営業支社 〒814-0001 福岡市早良区百道浜1-7-5
 ☎(092)841-6700

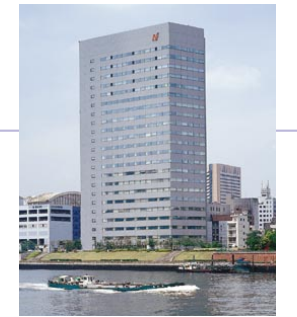
従業員数 1,914名

(参考)ニチレイグループの従業員数 6,921名

会計監査人

新日本監査法人
 東京都千代田区内幸町二丁目2番3号 日比谷国際ビル
 「監査法人太田昭和センチュリー」は、平成13年7月1日付で法人名称を「新日本監査法人」に変更しました。

ホームページアドレス <http://www.nichirei.co.jp/>



本社

役員

代表取締役会長 大戸 武 元
 代表取締役社長 浦野 光 人
 取締役専務執行役員 福田 厚 司
 取締役専務執行役員 横田 浩 二
 取締役専務執行役員 榎 敏 秀
 取締役常務執行役員 原 直 弘
 取締役常務執行役員 村上 英 彦
 取締役常務執行役員 前嶋 弘 一
 取締役常務執行役員 千葉 充 幸
 取締役執行役員 荒 昌 裕
 取締役執行役員 遠山 昌 利
 取締役執行役員 椎橋 治 男
 取締役執行役員 笠井 剛
 取締役執行役員 秋山 修
 取締役執行役員 相馬 義比古
 常任監査役(常勤) 後藤 一 彦
 監査役(常勤) 青木 信 吾
 監査役(非常勤) 河上 和 雄
 監査役(非常勤) 内野 治 泰

執行役員 大塚 恒 博
 執行役員 坂口 哲
 執行役員 長谷川 寿
 執行役員 荒 剛 史
 執行役員 大平 潤 一
 執行役員 宮 由 光
 執行役員 廣瀬 晋